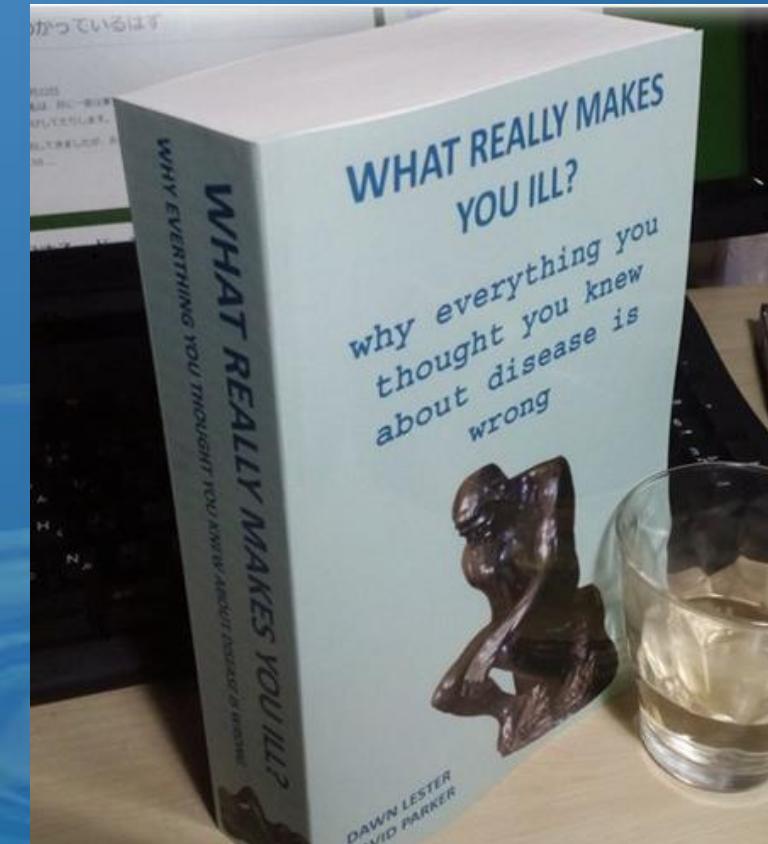


本当は何があなたを病氣にするのか？

What really makes you ill?

あなたが病氣について知っていると思ってきたこと
すべてが間違いの理由



その前に

- ・コロナある説、無い説、ウイルスある説、無い説について
- ・細菌(germ～ウイルスやバクテリア)が病気を起こし、それが「感染」すると証明した科学論文は一切ない。証拠が無いので、あるとは言えない。
- ・医学界が信奉する「コッホ原則」でさえ、満たされたことは一度もない。
- ・ウイルスの「分離」なるものは、後述するように「インチキ手品」
- ・コロナがある、ウイルスがあるとする学者・医者は、この事実をただ見ていないだけ、と思う。

- ・ライナー・フーミッヒ、ウルフガング・ボダーゲ
独コロナ調査委員会は、リクエストにもかかわらず、アンド
リュー・カウフマンやトーマス・コーワンを無視してきた。
やっと出演させたかと思ったら、彼らの発言を遮る始末。

「こちら側」の人でさえ、事実を見ようとしない

- ・ どこでも同じ。既に形成された信念を変えようとせず、事実を無視し、反対意見を聞かない。それが人間というものらしい。

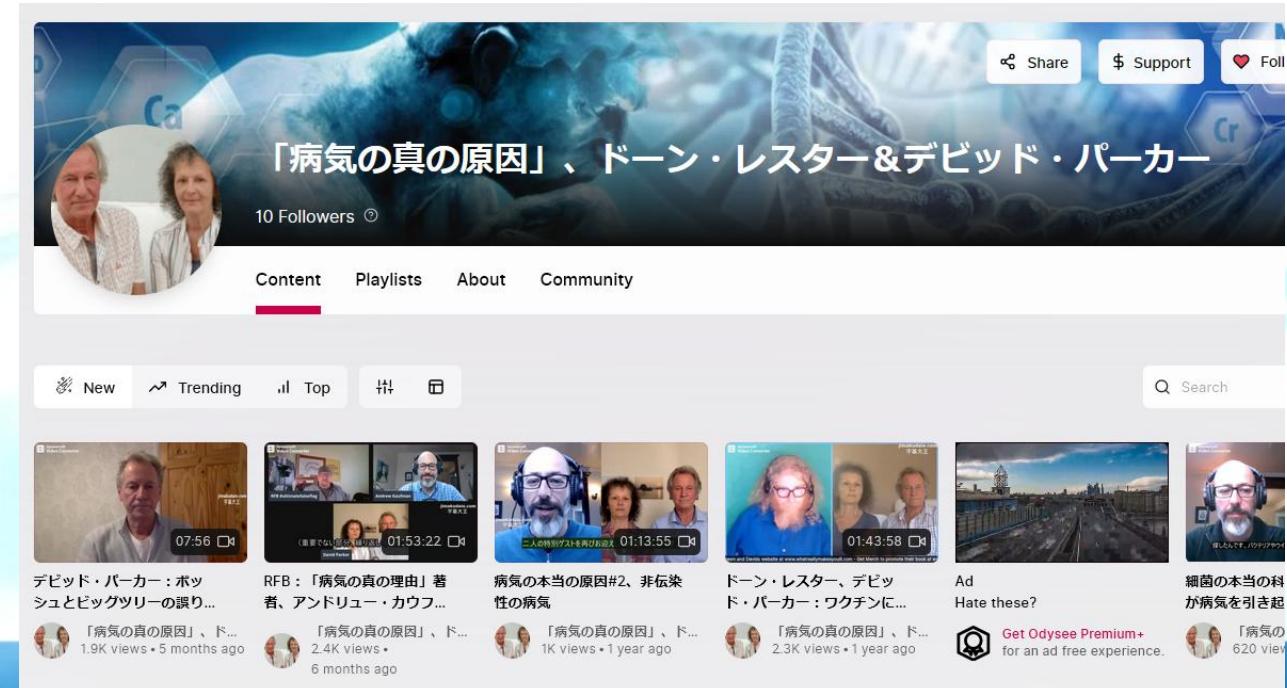
この本の要約



- ・ 現代医療は、ほぼすべてウソであり、数百年にわたるもの
- ・ 他の医療制度は、既得権益により、ことごとく潰されてきた
- ・ 病気の恐怖を使い、搾取と支配を行う
- ・ しかも、原因を理解しておらず、無関係な毒の治療により、治るどころか最悪死ぬ！
- ・ 洗脳教育を受けてきた医者は、何も知らず、調べず、ただ従うだけ。しかも、洗脳済のため、人助けの「善意」を持って行っている！
- ・ メディアやIT企業も同調し、一般大衆洗脳を強化する
- ・ コントロールしているのは、国連やWHO等の世界レベル。その裏にいる製薬会社や投資家等の既得権益
- ・ 「グローバルな問題」「グローバル化」を理由とし、各国独自の判断を越えさせ、世界中を従わせる。「民主主義」には何の意味も無い
- ・ 最終目的は、選出されてもいない「世界統一政府」による世界人民の奴隸化と、より強固な支配と搾取-->WHO「パンデミック条約」等の動き
- ・ 著者によれば、病気の原因は四つしかない(栄養不良、毒物、電磁波、長期ストレス)

著者紹介

- ・ ドーン・レスター～会計士
 - ・ デビッド・パーカー～電気工学エンジニア
 - ・ 字幕動画チャンネル
- <https://odysee.com/@wrmyi:d>





視聴者の皆さんには、我々のことを知らないでしょうから、

本を書いたきっかけ(3:06)



Apowersoft
Video Converter



RFB #ultimatefalseflag



Andrew Kaufman



David Parker

jimakudaio.com
字幕大王

この2020年の騒ぎを知ってから、本全体を書いたとすれば、

2019年発行の、この本を書き直す必要がある？(0:53)

結論から: 病気の真の原因

病気の原因はこれだけ

- ・正しい栄養の不足
 - ・毒物
 - ・電磁波
 - ・長期間のストレス
-
- 上の一つか、あるいは組み合わせ。
 - 医学界は原因をまるでわかっていない
 - 「バクテリア・ウイルスが原因」はすべてウソ。一切の証明がない。
 - 毒物には、ワクチン・治療薬を含む



人々がどうして病気になるのか見出そうとしました。

2021-09-17 09:45:59

病気の原因(2:13)

「医学界」という詐欺集団の手口 「感染症」の場合

感染症：

細菌(バクテリア、ウイルス)が
身体に侵入することにより病気を発症する
人や動物の間で伝染する

手口その1：人々の病気に目をつける

- 何かしら恐ろしい病気が、複数の人で起こっている

手口その2: 犯人を決める

- ・ 架空のウイルス、実在のバクテリアを犯人と決めつける
- ・ ウイルス: 分離など一度も無く、電子顕微鏡写真は、すべてでっちあげ(後述)
- ・ バクテリア: 病気でない人にも、それが存在する例多数

手口その3:検査をでっちあげる

- 例えばPCR検査、適当な検査で新型コロナ陽性にする
百日咳に使われ、大騒ぎになった例も
- 例えば、ワッセルマン検査で梅毒陽性にする
昔の米国では検査陰性が結婚条件で、何の根拠も無い男性
が陽性で自殺
- 例えば、エイズ検査。妊婦が偽陽性になりやすいため
既知なのに、わざわざ妊婦クリニックで検査させる(アフリカ)
- そもそも「ウイルス性疾患」の場合、ウイルス自体を検出する
検査は存在しない。ウイルスに対抗すると言われる「抗体」の
検出のみ

手口その4：治療薬なるものを処方

- ・薬はすべて毒物である。治るどころか最悪死ぬ
- ・病気を治す力は、身体以外には存在しない
- ・治る場合は、「毒物投与にもかかわらず」身体が治してくれた
- ・製薬会社の提出する「治った」データは、もちろんすべてインチキ
- ・薬で死んだのに、病気で死んだことにする

手口その5：「からないようにワクチンを」

- ・効果は全くなし。そもそも細菌が病気を起こす証拠無し
- ・それどころか、ワクチンはすべて毒
- ・金を払って、何の効果も無い毒を注射してもらっている

手口その6: 感染症を理由にして。。。

- ・ メディアに人々を洗脳させる
- ・ 人々の行動を制限させる
- ・ 税金で「治療薬」や「ワクチン」
- ・ WHOが勝手に各国権限を超える

「医学界」という詐欺集団の手口
非感染症の場合

原因が全くわからない

- ・メイヨークリニック「多発性硬化症は原因不明である」
- ・米国立神経疾患・脳卒中研究所「GBSの正確な原因是未知である。なぜ発症する人としない人がいるのか、研究者にも分かっていない」
- ・英国国民保健サービス「(アレルギーが)起こる理由は明らかでない」
- ・2016/6の論文「(糖尿病の)根本的メカニズムは十分に解明されていない」

- ・ 英国国民保健サービス「アトピー性湿疹の正確な原因は不明である」
- ・ CDC「リウマチの具体的な原因は不明である」
- ・ CDC「専門家でも多くの関節炎の原因は分かっていない」
- ・ メイヨー・クリニック「二分脊椎の原因は何か、医師にもはつきりしない」
- ・ WHO「喘息の根本原因は完全には解明されていない」
- ・ アメリカがん協会「ほとんどの小児白血病の正確な原因は未知である。」

根本論理の破綻

- ・「いかなる問題であれ、その原因が特定され、取り除かれた場合」にのみ解決する
- ・現代医学は、問題の原因特定さえできていない
- ・まして、現代医学に問題解決はできない
- ・にもかかわらず、てきと一な「薬」と称する毒物を処方する完全な詐欺

医療のウソの代表例:エイズ

jimakudaio.com
字幕大王

このウイルスがエイズを起こすなど信じないことの。

ピーター・デュースバーグの言(0:43)



Apowersoft
Video Converter



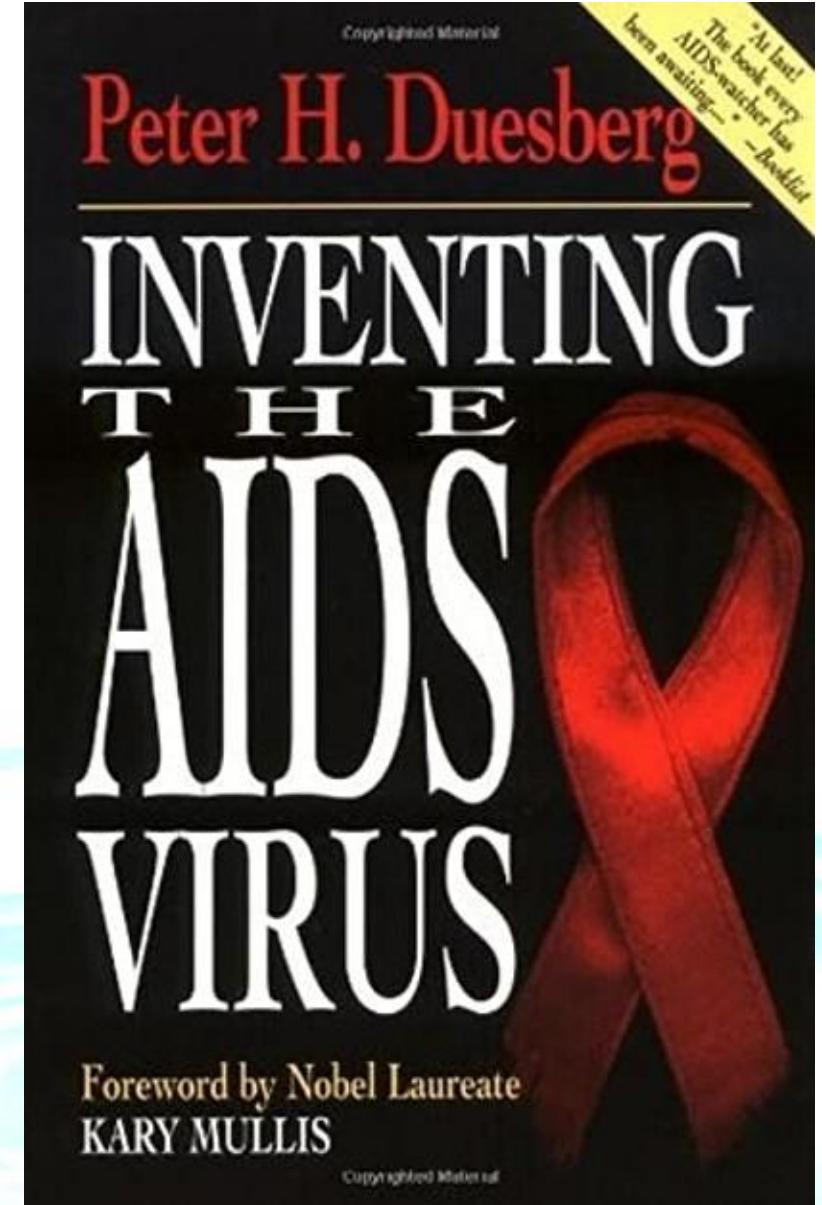
本当に遅れたんです。完成できませんでした。

キャリー・マリス：研究者の情報源は新聞・テレビ、我々はバカ(1:40)

- ・ピーター・デュースバーグ著
- ・キャリー・マリス序文

「HIVと呼ばれるウイルスがエイズという病気を引き起こすなどと、一体全体なぜほとんどの人々が信じているのか、何の理由も我々は発見できなかった。」

「我々は過ちを犯すのが人間であることは知っている。しかし、HIV/エイズ仮説は最悪の間違いである。」



エイズは全くのウソ

- PCR発明者キャリー・マリスは、HIVウイルスがエイズの原因という証明論文を二年間探して見つけられなかった。
- HIVウイルス発見者、ノーベル賞学者リュック・モンタニエも答えられなかった
- 周りの研究者がHIVが原因であることを知ったのは新聞・テレビから
- では、エイズ～後天性免疫不全症の真の原因是？

エイズの原因

- ・ 後天性免疫不全症は1960年代から知られていたが、エイズとされたのは1980年代に入ってから。
- ・ 後天性免疫不全症の原因は、ゲイ達がやっていた麻薬と、その治療に使われた抗生物質。
- ・ その治療と称してAZTという毒薬を処方する。
- ・ AZTで死亡すると「エイズで死亡した」ということにする。

フレディ・マーキュリーの死亡原因

 Apowersoft
Video Converter

jimakudaio.com
字幕大王



何度も同じパターンにはまる一般大衆

- ・過去の歴史をさかのぼると、医学界とメディアによる一般大衆の騙し方は全く同じ。同じパターンを繰り返している。特に、細菌が病気を起こすと言われ、その治療薬やワクチンと称する毒物で死亡すると、その「病気で死んだ」とするパターン
- ・キャリー・マリスの言「この惑星では、以前にもありましたよ。定期的にやってますね。我々がバカであることが期待されるんです」

ちなみに、日本のスモン病も

- 1955～1970年の15年にわたる日本における「感染症」
- 何度も「ウイルスを発見した」と報じられた
- 整腸剤「キノホルム」が原因の薬害だった
- スモン病で入院すると、治療として「キノホルム」が与えられ、死に至る。

「アフリカでエイズが蔓延」のウソ

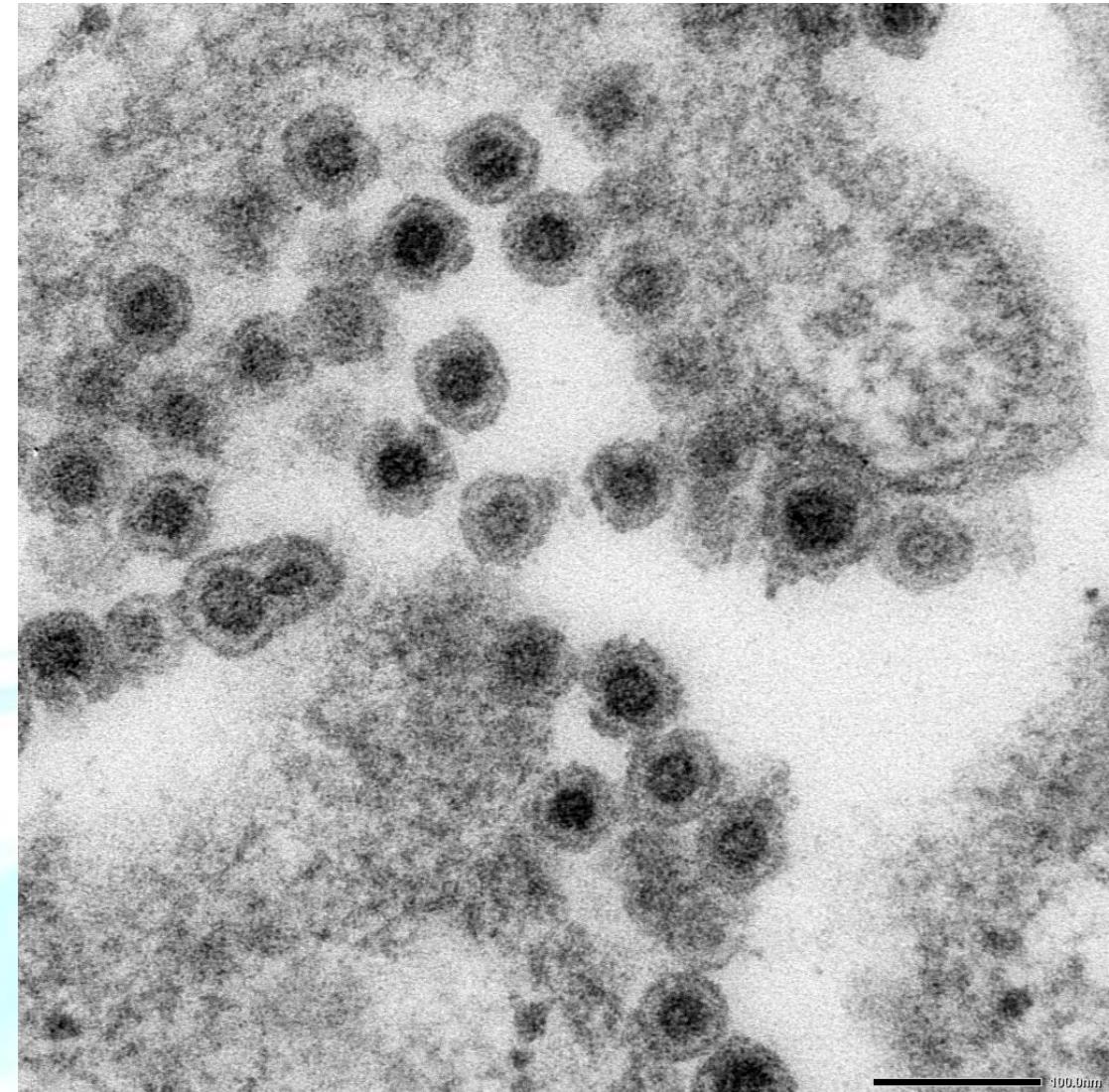
- ・ 新コロPCR検査と同様に、不正確な検査で「エイズ罹患」をでっちあげる。以前は検査さえもなく、体重減少、しつこい咳等で判断していた。
- ・ エイズ診断すると、ART(抗レトロウイルス療法)を投与。
- ・ 「胎児に感染させてはならない」と、産婦人科クリニックで検査。
- ・ ところが、エイズ検査偽陽性の条件の一つが「妊娠」

ウイルス学のウソ

ウイルス学は、学問でも科学でも無い
ただのインチキ手品

「はしかウイルスの電子顕微鏡写真」

- ・ ウソ、この物質が、はしかと
いう病気を起こすことを証明
できる者は地球上に誰もい
ない



「『ウイルス学』はインチキ、学問でも科学でも無い」チャート1

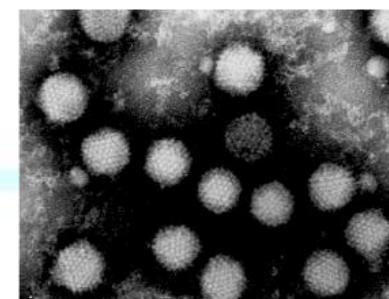
病人から取得した液体

猿の腎臓細胞、抗生物質など

混ぜて培養、細胞が崩壊すると
「ウイルスのせいで崩壊した」

健康な人との比較は一切無し
「ウイルス学者」はこれを
「ウイルスの分離」と呼ぶ

電子顕微鏡で、「てきとー」に撮影し、
「これがウイルスの姿だ！」と発表



混合物中の遺伝子配列の
すべての「断片」を取得

「断片」をコンピュータ
解析でつなぎあわせる。
が・・・・・

「『ウイルス学』はインチキ、学問でも科学でも無い」チャート2

「断片」をコンピュータ解析でつなぎあわせるが、つなぎ方は無数

あらかじめ「リファレンス」を人手で作成し、そこに「断片」を組み込んでいく。

「ウイルスの遺伝子配列」が完成！

完成した遺伝子配列の1/300程度をPCRプライマーとして作成

塗り絵の下書きを人為的に作成し、そこに紙の断片をモザイク状に埋め込んでいくようなもの

PCR検査：インチキ遺伝子配列の、その一部に一致する遺伝子があれば、「陽性」。サイクル数が高ければ、無関係な遺伝子も引っかかってくる

ウイルス学者の言う「分離」



診断検査の作成やワクチンの作成といったものは、
As I said, it 単純に不可能です。 **procedure**
has never been done.



10年の長い話を短くするとですね。

Check

ウイルス「配列」の作られた

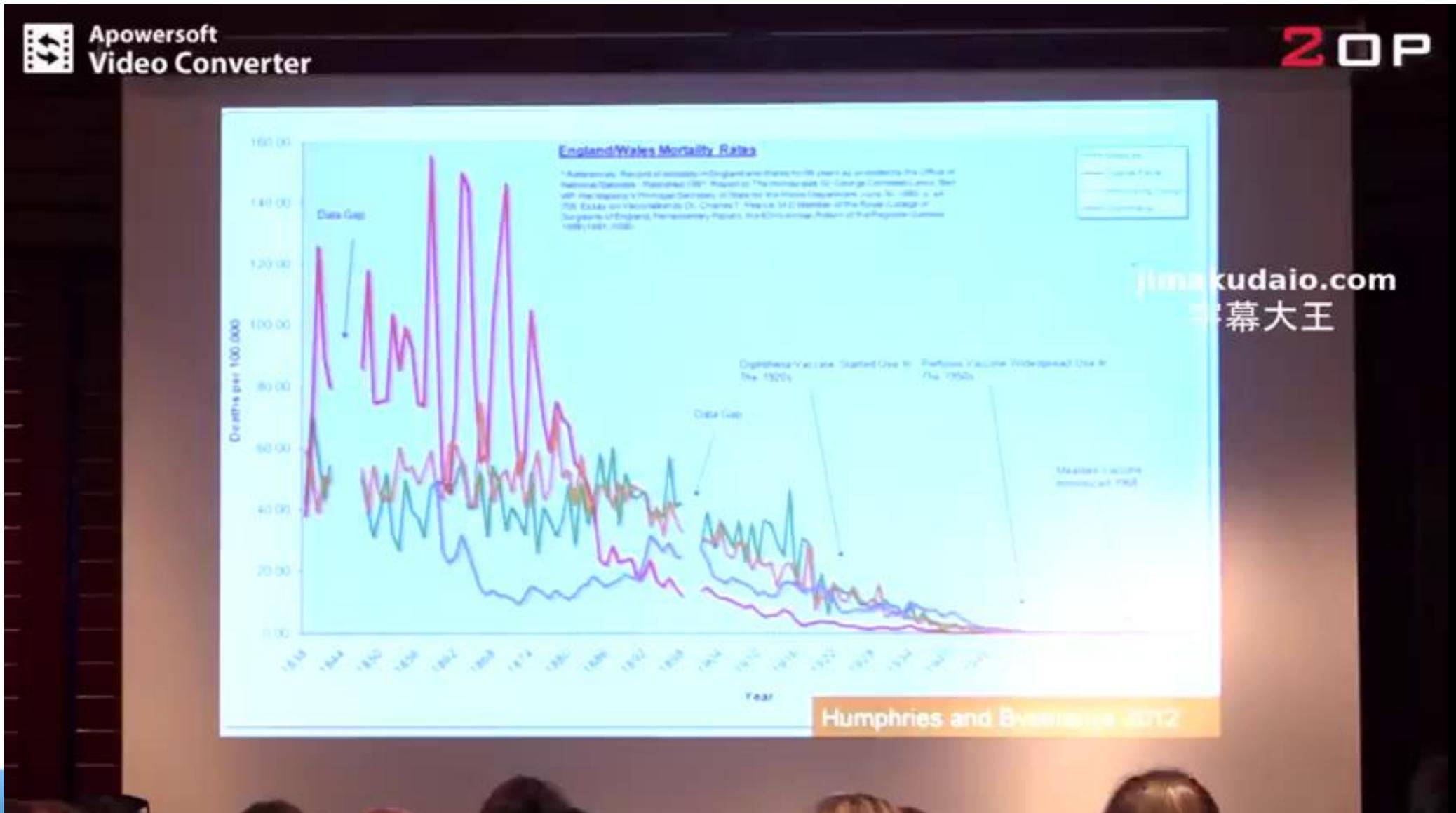


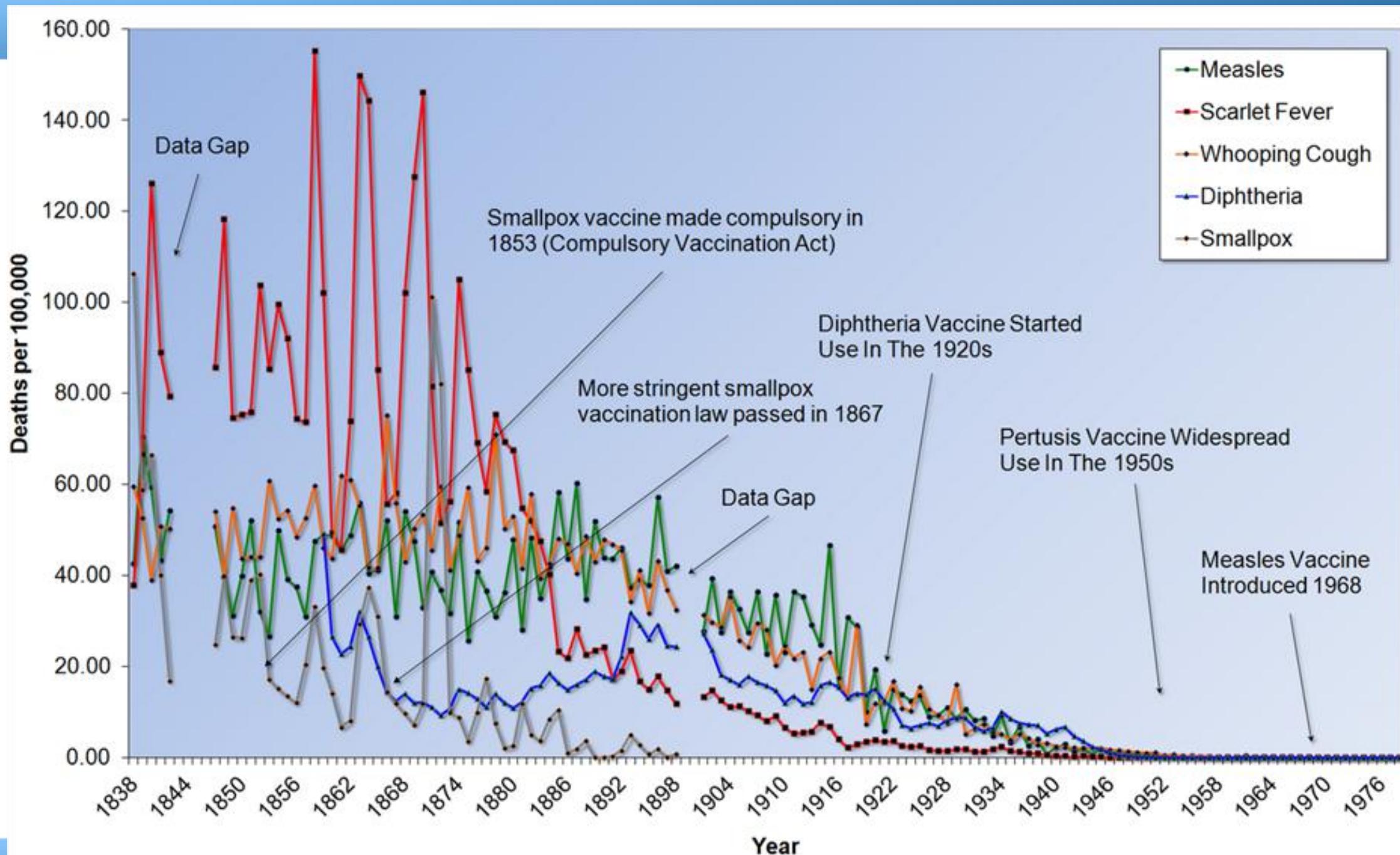
これが彼らが遺伝物質に
やっていることです

Subtitles by
queserasera.cc

ワクチンのウソ

スザンヌ・ハンフリーーズ: ワクチンのウソ





「ワクチンで病気が消えた」はウソ

- ・ワクチン出現以前に死亡率は下がっている
- ・その原因是、上下水道、衛生設備等の発達

狂牛病のウソ



レスター/パーカー: 狂牛病のウソ



英国での大きなこととして、狂牛病がありますが、

狂牛病(BSE)はウソ

- ・ オフィシャル「プリオン(異常タンパク質)」によるもの
- ・ 本当は。。。
 - ほぼ英国でしか発生していない
 - 英国政府が、ウシバエ対策のために農薬フォスマット(有機リン酸エステル)をかけろという法律を作ったため
 - 毒物が背中から浸透し、脊髄を通り、脳にまで到達
 - この肉を食べた人間も同様の症状に

狂犬病のウソ



狂犬病はウソ

- オフィシャル「パスツールが狂犬病ワクチンを開発し、多くの命を救った」
- 実際は。。。
 - ルイ・パスツールがウサギを「狂犬病」にした方法は、頭蓋骨に穴を開け、脳に汚物を詰め込むことだった。
 - ライオネル・ドール「パスツールは、そのワクチンでただの一つの命も救ったことを証明できないが、極めて確かなこととしては、その治療によって多くの人間が死亡したことだ。一方で、犬に噛まれた人間が完全に健康であるにも関わらずだ。」
 - 狂犬病を起こすウイルスを、彼もその後継者も特定していない

天然痘による全滅のウソ

小林よしのり 「コロナ論」



さらに当時の
アメリカ大陸には、
馬が存在せず、
初めて見る騎兵隊に
インカ兵は、
全く太刀打ちが
できなかつたのだ。

そして、ピサロには
もうひとつ大きな
武器があつた。

コロンブス以来、
新大陸にはヨーロッパから
天然痘をはじめとして
インフルエンザ、チフス、
腺ペスト、その他の
伝染病がもたらされ、
免疫のない先住民の
多くが死んでいた。

皇帝モンテスマを
継いだばかりの
皇帝クイトワクも、
天然痘で死んだ。

中村医師のスライド

天然痘

ネイティブアメリカンを絶滅させたのは本当か

一般的な説

入植したヨーロッパ人により病原体(天然痘, 麻疹, インフルエンザ, 腺ペスト, ジフテリア, チフス, コレラ, 猩紅熱, 水疱瘡, 黄熱, 百日咳など)が持ち込まれた



→ **免疫のない数百万人の原住民が感染、死亡**
したとされるが、、、

本当は。。。。

- ・入植者達が先住民を殺しただけ
- ・金銀財宝を略奪した上に、死ぬまで採掘にこき使った
(死んでも代わりはいくらでもいた)

イントロダクション

ヴォルテールの言葉

- ・「医師とは、その知識があまり無い薬を、それ以上にわからない病気を治すために、何一つわからない人間というものに処方する者である」
- ・ 哲学者、文学者、歴史家
1694-1778



「現代医療」こそが本物のヘルスケアを提供する唯一のシステムである、という主張

- ・世界中の政府が、オフィシャルに採用する
- ・しかし、このような主張は事実に基づいていない
- ・病気の情報は医学界によって流布されるが、それらは間違いである
- ・その基盤となる考え方や理論に根本的な欠陥がある
- ・現代医療は根本原因を理解しておらず、治療で逆に悪化する

現代医療に問題の解決はできない

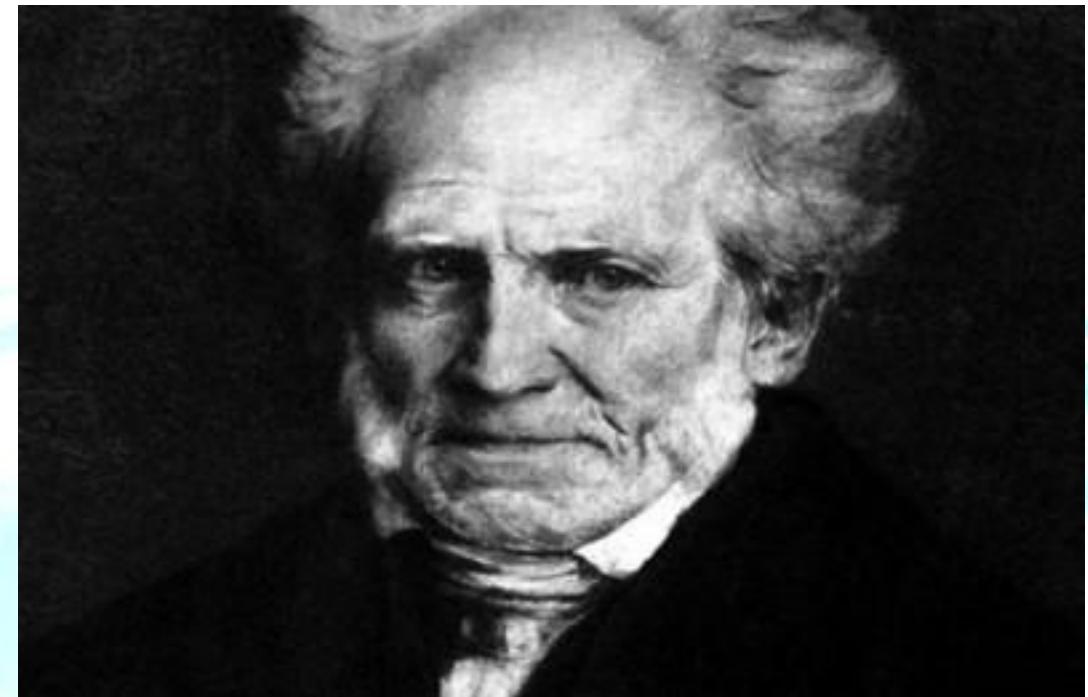
- ・「現代医療」は、病気の本質の把握ができず、すべての根本的原因を正しく識別することもできていない。
- ・その治療手段は、問題の解決として完全に不適切なものである。

本書の目的

- ・ 現代医療の考え方と理論の欠陥的本質を明らかにする。
- ・ 病気の真の性質と原因を説明し、情報を示す。
- ・ 情報を得た上で決断を行い、自らの健康に利益のある適切な行動を取ってもらう。

アーサー・ショウペンハウエルの言葉

- ・「すべての真実は三つの段階を経る。最初は馬鹿にされ、次に激しく反対され、最後には自明と受け入れられる」
- ・ 哲学者 1788-1860



第一章: 病気への処方: 健康のために死ぬ

現代医療の幻想

- ・ 医療の実施には固い基盤があり、これは、科学的に確立された証拠に完全に裏打ちされている
- ・ 薬と調合の使用は、同様に科学を基盤としており、その「医療」が対象とするものに適切であり効果的である

「一切の証拠が無い」

現代医療は病気を治せない

- ・ 薬の目的は症状を止めることでしかない
- ・ 現代医療では、多くの症状を「不治の病」と位置づける。不治なので、治すのではなく、「管理」する
- ・ すべての薬が「副作用」を起こす。新たな症状の出現により、より治癒が阻害される。→そしてさらなる薬。
- ・ WHOの方針は、「薬の使用」に重点が置かれている

「薬は毒でしかない」

「毒が薬になる」という考え方の起源

- 16世紀のパラケルススによるもの
- 「病気は生体内の化学システムの不均衡である」とし、梅毒の治療に水銀を用いた
- 「適切な用量で投与される有害物質は医薬品として適している」という理論
- この誤った考えが、現代まで続く

- ・ パラケルスス: すべては毒であり、毒無しのものは存在しない。
毒かどうかを決めるのは、量がすべてである
- ・ ハーバード・シェルトン: 毒とは、質的なものであり、単なる量的なものではない。

「薬は確かな科学的証拠に基づく」は間違い

- ・ 医薬品の使用が「安全である」「効果的である」という科学的証拠は提供されていない
- ・ 効果がないどころか、害の可能性があることを明確に示す証拠が出てきている

製薬会社での実験

- ・ 以前は病変組織に薬を使用し、効果の確証を得ていた
- ・ 最近は、疾患分子(DNA、RNA、タンパク質分子等)に適用
- ・ 生体で同じ効果が得られる確証はない
- ・ 疾患分子を生体から取り出した場合、同じ状態である確証はない
- ・ 次に動物実験・臨床試験だが、容量を決めるためのもので、効果の有無は見ていない

人体の反応

- ・ 薬の唯一の機能は、人体を毒することであり、唯一の反応は薬を排出しようとする
- ・ 身体の病気に侵されていない部分にまで影響を与える

毒は毒でしかない

FDA(アメリカ食品医薬品局)

- FDAが承認する薬の臨床試験は、新薬販売によって利益を得る製薬企業が資金提供している
- 製薬会社からの結果を厳しくチェックする人員も資金も無いため、難なく承認される

儲け主義製薬会社の思惑通り

薬の危険性・医原病

- ・ 抗生物質とステロイド
　製造には発酵が使われ、その溶媒には毒性がある
- ・ ほとんどの医薬品
　化学合成で、精製溶媒として毒性の高い物質が使われる
- ・ 副作用により新たな症状。多くの場合、元の症状より深刻
　これに対して別の処方薬が出される

精神薬

- 特定の行動が異常とみなされ、ほとんどの場合処方薬が出される
- 原因は脳内の生化学的不均衡とされるが、その根拠は全く無い
- 抗うつ剤の副作用の多くは、元のうつ病の症状であり、「抗うつ剤が緩和すべき症状そのもの」が副作用となって出る
- 翻訳計画中「Kelly Brogan / A Mind Of Your Own」～うつは食事と運動で治る

降圧薬

- ・ 高血圧は避けるべきものとされている。が、リチャード・D・ムーアの見解としては
 - 血圧上昇は、何かのバランスが崩れていることを示す
 - 高血圧でなくても、脳卒中は発生する
 - 高血圧が心疾患の原因ではなく、細胞や組織全体の不健康が原因である
- ・ 高血圧の本当の問題は人体の電気的アンバランス。アーシング等で電気的バランスを整えることが必要。

コレステロール

- ・「高コレステロールは危険」は間違っている
- ・本当の問題はコレステロールの酸化。細胞、脳内、血管に悪影響を与える
- ・にも関わらず、製薬会社はコレステロール自体を悪者にしている
- ・スタチン系薬剤は、肝臓酵素の働きを阻害し、コレステロールを生成できないようにするが、酵素を阻害すると副作用
- ・スタチンを服用すると、多発性神経障害を発症する可能性
- ・酸化の原因是、フッ化物、農薬、環境汚染など

第七章 「非感染性」疾患 さらなる医学的誤解

心血管系疾患、多重化学物質過敏症、電磁波過敏症、湾岸戦争症候群、自己免疫疾患、糖尿病、多発性硬化症、ギラン・バレー症候群、アレルギー、ピーナッツアレルギー、湿疹、喘息、関節炎、内分泌の病気・疾患、出生時障害、ダウン症、二分脊椎症、乳幼児突然死症候群、自閉症、がん

非感染性疾患(NCD)の規模

- WHO「非感染性疾患(NCD)により、毎年4,100万人が死亡しており、世界全体の死因の71%に相当する。」

医学界はこれらの病気の原因を全くわかっていない

- ・メイヨー・クリニック「多発性硬化症は原因不明である。」
- ・国立神経疾患・脳卒中研究所「(ギランバレー症候群を)なぜ発症する人としない人がいるのか、研究者にも分かっていない。」
- ・英国国民保険サービス「(アレルギーが)起こる理由は明らかでない。」
- ・2016/6の論文「(2型糖尿病の)根本的メカニズムは十分に解明されていない」
- ・WHOファクトシート「1型糖尿病は原因不明であり、現在の知識では予防不可能である」

- ・全米湿疹協会「湿疹の正確な原因は不明である。」
- ・英國国民保険サービス「アトピー性湿疹の正確な原因は不明である。」
- ・CDC「関節炎の具体的な原因は不明である。」
- ・メイヨー・クリニック「二分脊椎の原因は何か、医師にもはつきりしない。」
- ・WHO「喘息の根本原因は完全には解明されていない。」
- ・アメリカがん協会「ほとんどの小児白血病の正確な原因は未知である。」
- ・国立関節炎・筋骨格・皮膚病研究所「自己免疫疾患の原因は誰にもわからない」

その一方で医学界が認めたがらないこと

- ・ あらゆる種類の化学物質の影響
 - ほとんどテストされておらず、テストの必要も無いことになっている
 - テストがあっても、「一定レベル以下であれば安全」とする。
- ・ 電磁波の影響

医学界に原因がわからない理由

- ・ わからないのではなく、証拠を無視し、眞の原因追求をしていない。
- ・ 実際の原因是、化学物質、電磁波だから。関連業界による医学界への影響は間違い無い。

多発性硬化症

- ・ 日本では7000人程度
- ・ 「脳や脊髄の神経を包むミエリン鞘(髓鞘)が損傷し、関係する神経の機能に影響を与える。」
- ・ 実際には、体内メチル化が関係しており、メタノールが入り込んだ結果。最大の要因は、アスパルテーム。
- ・ Woodrow Monte博士の研究:アスパルテームによる脳の損傷は、メタノール中毒時の部位と同じ。

電磁波過敏症

- ・ 電磁波過敏症は定義さえもない。
- ・ 多数の証拠があるにも関わらず、WHOは電磁波の害を認めず、ファクトシートさえもない。
- ・ 当然、医師も電磁波の危険性について何の教育も受けておらず、疾患に対して対症療法薬(頭痛なら鎮痛薬)を処方するのみ。
- ・ WHOの態度は軍や業界の影響と思われる。
- ・ ここでもまた、原因の「わからない」医学界が、不適当な毒物で「治療」を行うという構図。

喘息

- ・ 喘息とアトピー性皮膚炎の原因は同じらしい
- ・ 共に何らかの毒を体外に排出しようとする過程であり、排出器官が異なるだけ
- ・ Bieler博士「合理的で良く成功する治療は、まず患者の解毒であることがわかった。」

出生時障害

- ・ 内分泌搅乱物質(環境ホルモン)
- ・ シーア・コルボーン「内分泌系は非常に繊細に調整されており、子宮環境制御のために1兆分の1グラムというわずかな濃度のホルモンに依存する。3,169世紀の中の1秒にも満たない量だ。」-->毒は毒でしかなく、量は関係無い

ジカウイルスのウソ

- ・ジカウイルス感染による「小頭症」は全くのウソ
- ・ブラジルでの農薬散布地域と、小頭症発生地域が重なっている。
- ・媒介蚊根絶やしのために、さらに農薬
- ・医学界の良くやる悪循環



がん

- 例によつて医学界は、化学物質や電磁波曝露を考慮せず、「遺伝的要因」「感染性」にこだわる。いずれも否定されている。
- そして、がん発生プロセスの理解も乏しい。
- David Rasnick博士とピーター・デュースバーグ博士：すべてのがんは、染色体異常の結果発生する～がんの異数性理論
- Rasnick博士「ダウン症の場合、欠陥は生殖細胞で起こるので、染色体異常は体内的のすべての細胞に存在する。」「(がんは)身体が形成された後、特定の細胞で(欠陥が)発生する。」

- ・このような染色体異常は、やはり「毒物」の蓄積で起こるらしい。その結果、老齢の方ががんになりやすい。

- ・「二次」がんの代表的な部位は肝臓である。先述の通り、肝臓は主要解毒器官である。したがって、肝臓がんは、それを体が処理して排除する能力を失くしている過剰な毒素の体内負担から生じるものだ。これらの毒素には、化学療法「薬」としての化学物質を含む。つまり、「治療」は必然的に転移の原因となるのである。残念なことに、二次がんの「治療」では、化学療法や放射線療法、あるいはその両者をさらに投与されることが多い。このような毒物の猛攻の結果、患者が死亡し、「がんとの戦いに敗れた」とされるのである。現実には、患者は毒素蓄積との戦いに敗れたのだ。毒素には、「治療」で使用されたものに加え、元々のがんの原因となった物質も含まれる。

- ・ 医学界が「がんとの戦い」に勝利していないことが、十分に明らかである。しかし、この敗戦は必然だった。彼らの採用したアプローチが欠陥理論に基づくからである。つまり、病気を「殺す」ためには発がん性を持つ治療法の使用を適切と考えるものだ。このアプローチは、がん発生率と死亡率の悪化のみに成功した。残念ながら、この問題はがんに限ったことではない。あらゆる慢性疾患に関するメカニズムについての医学界の理解には欠陥がある。

第八章 世界的問題～より広い視点から

国連の役割

- そもそも、国際的な平和と安全の維持が目的だった
- 現在は、平和と安全、気候変動、持続可能な開発 (Sustainable Development)、人権、武装解除、テロ、人道と健康の緊急事態、男女平等、統治、食糧生産
- これらが「世界的」問題であるとして、その解決を「**世界的に強制**」する言い訳にしている



国連戦略の重要な側面は「開発」

- ・「開発」が、文明と生活の質の向上と同義であるとされてしまっている
- ・「グローバリゼーション」を背景に、その恩恵を開発途上国に与え、参加させる
- ・国連の目標は人々の幸せではない！

国連2030アジェンダ

- 17の計画(SDGs)と169の目標
- SDGsは開発途上国だけではなく、すべての国連加盟国対象
- SDG=Sustainable Development Goals
=持続可能な「開発」ゴール
- ちなみに、SDG推進企業もまた、善意で行っている。

欠陥のある国連の考え方1

- ・「すべての人の健康」の背後の考え方としては、健康と開発が連結していること
- ・開発推進には国民の健康が必要と、経済への有用性の観点から国民を見ている
- ・WHOウェブ「健康な国民は長生きで、より生産性が高く、より金がからない」
- ・不健康な人々の医療費は、国にとって財政的負担
- ・「人々の存在意義は、国の発展と経済成長」というおかしな仮定
→後述するが、読売新聞などは「人生の目的は経済」との洗脳を

欠陥のある国連の考え方2

- ・健康は、薬とワクチンによる現代医療のみにより提供される

SDG 3のターゲット8

- ・「すべての人々に対する財政リスクからの保護、質の高い基礎的な保健サービスへのアクセス及び安全で効果的かつ質が高く安価な**必須医薬品**とワクチンへのアクセスを含む、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC、国民皆保険)を達成する」
- ・ UHCには莫大なコストがかかる。つまり、先進国による援助が薬とワクチンに使われる。
- ・しかし、米国のように、いくら金を使っても人々は不健康。

すべての人に薬を

- ・「薬だけが病気を治す手段である」には根拠がない
- ・ 薬は、身体の特定機能を阻害する化学合成物質である
- ・ 現代医療では、その副作用に名前をつけ、さらに薬で治療しようとする
- ・ 厳格な安全性審査はウソ、深刻な副作用で販売停止になったもの多数
- ・ 他の薬との相互作用は調べられていない
- ・ 安全性試験は、ほぼ半年間だけ

すべての人にワクチンを

- WHOの主張～「予防接種は毎年200万～300万人の死亡を防ぐ。適用範囲を改善すれば、さらに150万人の死亡を回避できる」
- 全く立証できない。根拠が無い

SDGsで取り組む病気

- SDGs目標3.3～2030 年までに、エイズ、結核、マラリア及び
顧みられない熱帯病といった伝染病を根絶するとともに肝炎、
水系感染症及びその他の感染症に対処する。

HIV/エイズ

- HIVがエイズの原因であるとする理論には根本的な欠陥(第4章)。これを認めず、2030年までに根絶するとする。
- アフリカが主な感染地域というが、「体重減少、発熱、下痢、無力症、慢性的な咳」等の一般的な症状をエイズとする。
- 1995年の論文「欧米と異なり、アフリカのエイズは臨床検査なしで診断される」
- その後の検査では、「抗体」を検出するだけ。第四章で無意味さを指摘している。
- 妊婦クリニックで実施されているが、妊娠は偽陽性が出やすいことがわかっている。

- WHOは、抗レトロウイルス療法(ART)によりエイズ治療が大きな進歩を遂げたというが、ARTは非常に有毒であり、ARTで命を救うことはできない(第四章)。
- にもかかわらず、WHOはARTの使用拡大で、SDGsの目標を達成するとする。
- HIVはエイズの原因ではなく、機能していない検査、診断であり、有毒薬物での治療で早期死亡が起こっている

結核

- WHO「2017年に160万人が結核で死亡した」
- WHO「症例と死亡の95%以上は発展途上国」
- WHO「HIV感染者は、非感染者より20から30倍活動性結核を発症しやすい」
- HIVと結核が共存しているという
しかし、結核は細菌性、エイズはウイルス性である
→本当は、結核がエイズの偽陽性をもたらしやすいから！

結核の「原因」は？

- 2009年の論文「糖尿病と結核の関連性は何世紀も前から認識されていた」「結核と糖尿病の併発は低所得国でも高所得国でもよくあることであることをいくつかの研究が示している」
- 精製糖は「最も甘い毒」と呼ばれる有害物質である
- 2012年の論文「世界で最も結核患者が多い国インドでは、糖尿病率も流行的増加を見ている」
- 結核とは、体外に排出されるべき毒素が蓄積された状態である。Bieler博士の説明「肝臓や腎臓の通常の働きで毒素が排出されにくいとき、肺がその経路を補助する」

個人的疑問

- ・日本の昔の文豪等、結核死因の人物多数
- ・それほど精製糖があったのか？それ以外も原因になるのか？
- ・しかし、いつも通り、医学界の「診断」がデタラメの可能性もあるのでは？

カテゴリ「結核で死亡した日本的人物」にあるページ

このカテゴリには 235 ページが含まれており、そのうち以下の 200 ページを表示しています。

[\(前のページ\)](#) [\(次のページ\)](#)

あ

- ・相川博
- ・青木繁
- ・明石海人
- ・悪麗之助
- ・浅羽佐喜太郎
- ・新谷昌明
- ・有栖川宮威仁親王
- ・安藤貫一
- ・安東清人
- ・安藤東野

- ・嶋田青峰
- ・清水郁太郎
- ・清水鉱治
- ・十一谷義三郎
- ・白川晴一
- ・素木しづ
- ・進鴻渓

い

- ・五十川基
- ・池田寿夫
- ・池谷信三郎
- ・石川暎作

- ・菅忠雄
- ・須賀田穢太郎
- ・杉健一
- ・杉浦譲
- ・杉田廉卿
- ・菅野鋭
- ・鈴江言一
- ・陶山篤太郎

第九章 特権と支配のアジェンダ

アジェンダ＝予定表・計画

一言で言えば(私の解釈)

- ・ 様々な国際組織(国連、WHOなど)は、管理と統制を目的としている
- ・ 人々を欺き、搾取するためのもの
- ・ これを「人類全体のため」というフリをして行っている
- ・ これらの権限は、実質的に国家より強い
- ・ 政治家は、そこから降りてくる方針に従うだけ
- ・ 共産主義、民主主義など無関係



起こってることとしては。。。認識する必要があります、

Check out Dawn and Davi

世界統一政府(1:03)

グローバリゼーション

- ・「グローバリゼーション」の目的の一つは、すべての分野で国連機関の取り決めに完全に従わせること
- ・各国が「グローバルシステム」の政策に準拠した措置を実施しなければならない

グローバルな取り組みが必要とされる

- ・ 地球温暖化
- ・ 食料問題
- ・ 健康問題
- ・ これらの「解決」のために、各国政府に政策を強要するが、実際には、解決になっていない。儲かるのは、既得権益者だけ。

最終的には

- ・ すべてのシステムを統括する規則、規制、基準の「調和」を必要とする
- ・ 単一の中央「当局」が支配する単一の「グローバル」なシステムに統合される → One World Government(世界統一政府)
- ・ 最近のパンデミック条約！

グローバリゼーションで恩恵を受けるのは

- ・石油会社
- ・金融機関(土地・商品の投機家含む)
- ・グローバル農業ビジネス
- ・軍需産業

支配的な既得権益

- ・ ウォール街
- ・ 軍産複合体
- ・ ビッグオイル(石油)
- ・ バイオテクノロジーコングロマリット
- ・ ビッグファーマ(製薬)
- ・ グローバル麻薬経済
- ・ メディアコングロマリット
- ・ 情報通信技術(IT)

この問題が悪化している理由

- ・エドワード・バーネイズの言葉通り、
一般大衆が、全く知らない人々によって「統治」されているから

余談：石油は、実は。。。 

石油を採掘し続けると枯渇する！

- ・石油は「化石燃料」ではないらしい
- ・1956年、ロシアの科学者
「原油や天然ガス・石油は、生物とは本質的に関係がない」
- ・裏付ける証拠多数あり
- ・「現代のロシア・ウクライナの深層無生物石油起源説では、石油は地殻に噴出した深層起源の(最初から存在する)原始物質であると認識されている。」
- ・世界最大級の石油・ガス生産国であるロシアの石油業界では、その原理を実践して成功

この話が流布されない理由

- 石油が「希少資源」との主張に基づく高価格を正当化できなくなる。しかし、最も強力な「既得権益」には、何十年にもわたって石油産業に関わり、支配してきた。

医療システムの支配

WHO

- ICD(国際疾病分類)による国際基準を設け、定期的に更新している
- 別章で現代医療の病気の予防と治療に使う「薬」と「ワクチン」は不適切であることを示し、病気が減るどころか増えていることを示した。
- なぜ間違いを認めないのか？



既得権益による大きなシステム

- ・ 教育、製薬企業、医療機関のシステムが存続する限り、既得権を得ている。
- ・ ピーター・デュースバーグ
「どんな分野であれ、コンセンサスとなっている見解を個人的にさえ疑おうとする学者は、もはやほとんどいない」
- ・ 大多数がこの問題に关心がなく、グローバリゼーションの促進で、既得権益の恩恵はさらに大きくなる。
- ・ ハーバート・シェルトン
「偽りの教育を受けるほど、偽りに固執する」

医学教育

ロックフェラーの存在

- 石油産業を支配したロックフェラーは、石油由来の化学物質からの医薬品に既得権益。それを利用した医療システムの開発。
- 有害物質を薬にするわけ:「有害な側面もあるが、治療効果もある」という信念

フレクスナー・レポート(1910年)

- ・石油業界から派生した現代の医療業界の目的は、医療利権の継続
- ・医療を利益につなげると考えた勢力が資金提供に乗り出し、既得権益を握る
- ・フレクスナー・レポート:「石油に含まれる成分から製造した薬で治療する医療を教える学校のみを医療大学として認定すべし」
→他の治療法(治る医療)をすべて潰す意図



Abraham Flexner's report was published in 1910 and the purpose was to improve the quality of medical service by establishing professional medical education based on mainstream scientific principles.

But what was accepted as science in the early 20th century?

jimakudaio.com

字幕大王

「ヒポクラテスの偽善」より(2:13)

このシステムのもとで勉強した医学生

- ・ 薬を「必須医薬品」とみなし、発展途上国に援助したいと思わせる
- ・ 例えば、イエール大学と国境なき医師団と協力し、エイズ治療薬の大規模な拡大へ。何百万が有害薬品による害を受けている
- ・ 医師になった後も継続教育で、製薬会社がスポンサーのコースへの参加義務付け
- ・ 医学部の高い学費と長い年月は、正しい理論とする強い信念を育て、欠陥を認めるのが難しくなる

否定証明済理論でさえ科学的「知識」とされる

- ・コッホ博士は、結核の原因は結核菌(*M.tuberculosis*)という細菌であると主張。しかし、細菌に「感染」しても病気の症状がないことがあり、コッホ自身の第一原則に反している。
- ・ピーター・デュースバーグの言葉
「たった一つの例外で十分だ、その微生物がその病気を作ったことの無罪宣告には。」

高度技術装置を「医療科学」と同一視

- ・ピーター・デュースバーグ

「小規模から大規模へ、さらにメガ規模の科学への移行が、熟練した技術者を作りだしたが、科学者として凡庸である。彼らは、眞の科学的解釈を放棄し、さらには自分の実験を科学そのものと同一視さえする。」

医療研究

医学研究は営利目的

- ・ 売れる医薬品の特許取得に研究費をつぎこむ
- ・ 既得権益の合意に沿わない研究には資金が出ない
- ・ 「科学的信念」に沿うようにデータを作成する
最も人気なのは、「細菌が病気を引き起こす」理論
- ・ 医学雑誌は、製薬会社のマーケティングの場になっている
- ・ 新薬やワクチンの有効性研究は、信ぴょう性が低い

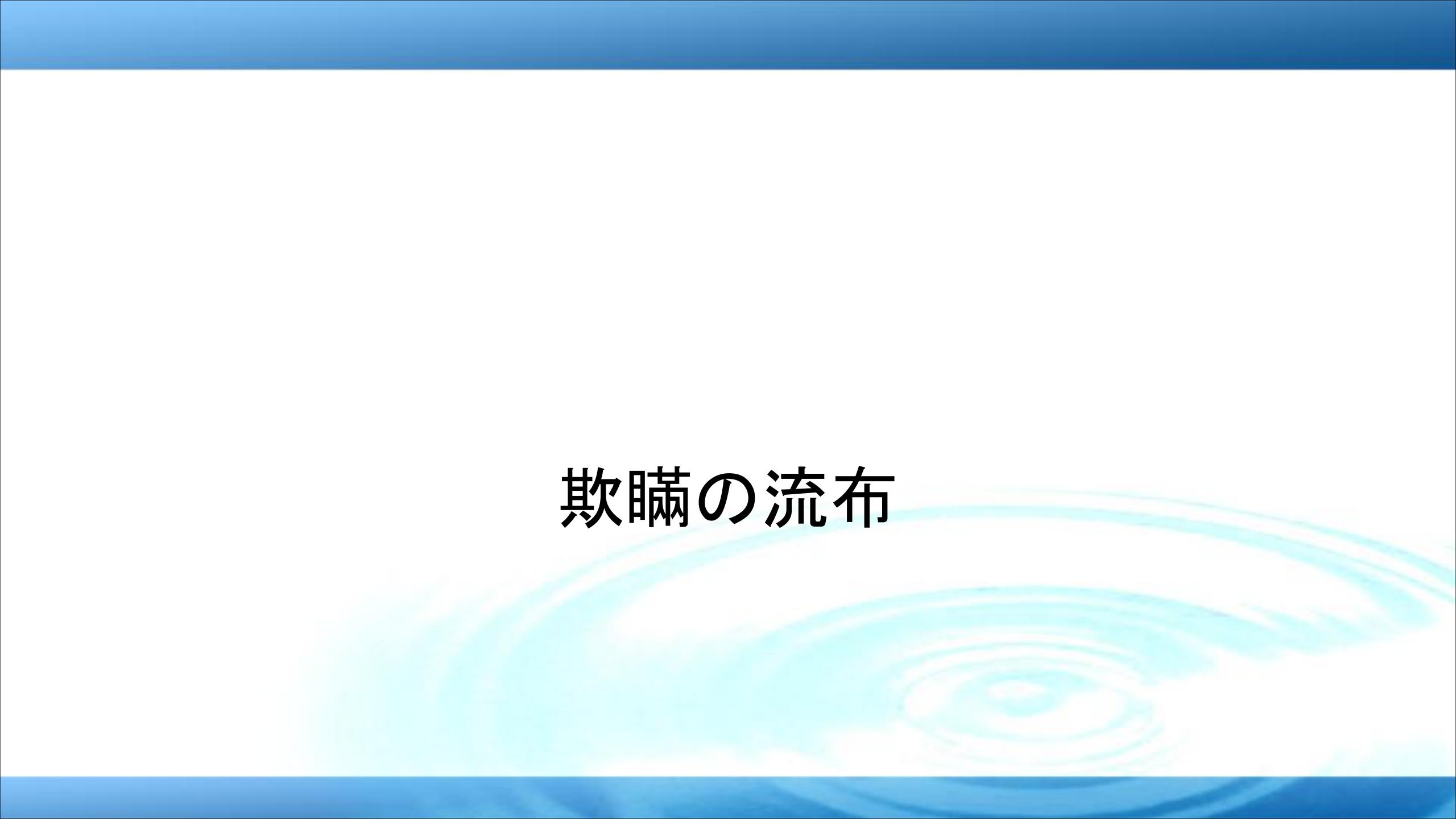
論文のゴーストライター

- ・「フリーのライターを雇って、これまた雇った医師の署名のもと、査読付きのジャーナルに記事を書かせる。」
- ・「科学と医学にはゴーストライティング産業がある。」
- ・「製薬会社とそのエージェントが、論文の研究、分析、執筆、出版という複数の段階をコントロールし、方向付けしている。」
～ゴーストマネジメント
- ・「科学ジャーナルの編集スタッフや編集長のほとんどもまた、製薬会社から研究費を受け取っており、さらには金を得ている企業の株式を保有さえしている。」

口タウイルスワクチンの例

- ・「ワクチン認可後、約一年の間に、接種した子供に重度の腸閉塞が100例以上報告されたため、市場から撤去された。」
- ・「FDAと疾病対策センターの諮問委員会は、ワクチン製造者と関係するメンバーで埋め尽くされていた。」

欺瞞の流布



2030アジェンダ実現のために

- ・組織グローバルゴール「貧困を終わらせ、不平等と戦い、気候変動を止める」
- ・その多くは、真の問題を特定しており、称賛に値するが、既成概念を疑いもなく信じており、目標の根拠となる理論の欠陥に気づいていない。
- ・問題の完全な理解と、その正しい原因特定のみが、問題解決をしうる
- ・しかし、「専門家」によるドグマ的見方しかできない

著者の主張

- もし「科学」がオープンで公平無視であったならば、人類が直面すると言われている多くの問題はそれほど深刻ではなく、多くは存在さえしていなかっただろう。

PRとプロパガンダ

欺瞞の広め方

- ・ 大多数が「権威」を信用することを、既得権益は悪用してきた
- ・ 石油化学製品は、有益であるとだけ宣伝され、有害性は知らされていない
- ・ 消費者は「安全でなければ市場に出ない」という固定観念があり、疑いを持たない

恐れを利用する

- ・「感染症が危険な病原体によって起こされる。ワクチンがこの恐怖を解決する」というパターン
- ・都合の悪い情報が流れるのを防ぐため、徹底的に攻撃する

メディア

- ・ 偏りの無い信頼できる情報源であり、事実であるとみなされている
- ・ 既得権益がメディアを所有している→
米国の場合には明らかだが、日本の場合は今一つ見えない

インターネット

- ・主流の巨大ITすべてが情報を操作している
 - Googleは検索結果を操作
 - YouTubeは動画を恣意的に削除
 - Facebookはファクトチェックという名の検閲
- ・ときには、異なる企業において、申し合わせたののように一斉に特定人物を検閲

最近の私のYouTubeチャンネル

☆ [著作権の申し立て] 申し立ての撤回: "Reminder that two years ago, Tulsi Gabbard ...	● YouTube	⌚ 2021/09/15 5:56
☆ YouTube 広告でチャンネルをレベルアップ	● YouTube	⌚ 2021/09/23 2:15
☆ 📢 YouTube はお客様の動画を削除しました	● YouTube	⌚ 2021/10/06 15:14
☆ 📢 YouTube はお客様の動画を削除しました	● YouTube	⌚ 2021/10/11 23:44
☆ 📢 YouTube はお客様の動画を削除しました	● YouTube	⌚ 2021/10/12 5:18
☆ 📢 YouTube はお客様の動画を削除しました	● YouTube	⌚ 2021/10/12 13:46
☆ 📢 YouTube はお客様の動画を削除しました	● YouTube	⌚ 2021/10/12 20:56
☆ 字幕大王 様、10月のクリエイター マンスリー ニュースレターをお届けします。	● YouTube Creators	⌚ 2021/10/13 7:45
☆ 📢 YouTube はお客様の動画を削除しました	● YouTube	⌚ 2021/10/14 21:40
☆ 📢 YouTube はお客様の動画を削除しました	● YouTube	⌚ 2021/11/03 16:09
☆ [YouTube] "Just Chinese fisherman couple eating" のコンテンツに対して著作...	● YouTube	⌚ 2021/11/07 9:07
☆ Important update from YouTube API Services: Making the dislike count private	● YouTube API Services	⌚ 2021/11/11 2:29
☆ 字幕大王 様、11月のクリエイター マンスリー ニュースレターで、成功のヒントをチェックしてください。	● YouTube Creators	⌚ 2021/11/13 8:44
☆ 📢 YouTube はお客様の動画を削除しました	● YouTube	⌚ 2021/11/19 18:29

差出人 YouTube <no-reply@youtube.com> ☆

返信 全員に返信 転送 アーカイブ 迷惑マークを付ける 削除 その他

2021/11/19

件名 📢 YouTube はお客様の動画を削除しました

宛先 vi

☆

YouTube チームによる審査の結果、
お客様のコンテンツは誤った医療情報に関するポリシーに違反していると判断されました。
今回は、お客様が YouTube
のポリシーに違反していると認識しておられなかった可能性があるため、
お客様のチャンネルに対して違反警告は発行されていません。ただし、次のコンテンツは
YouTube から削除されました。

ファクトチェックという名の検閲

- 英政府は、ファクトチェック慈善団体が中立の立場で行っているとする
 - 資金提供者の一人はジョージ・ソロスのオープンソサエティ財団

ニュースのウソの例

はしか

- WHO「2017年に世界で11万人のはしかによる死者」
ところが、
- WHO「はしかによる死亡のほとんどは、病氣に伴う合併症によるもの」
さらに、
- WHO「はしかによる重篤な合併症は、良好な栄養、適切な水分摂取、脱水症状の治療を確実にするサポートティブケアによって減らすことができる」
- ジャーナリストは最初の文だけを報道

- WHO「流行を防ぐためには、毎年、すべての地域で、はしかを含むワクチンを二回接種し、少なくとも95%の予防接種率が必要である。」
ところが、
- 某論文「ワクチン接種率が98%と記録されている高校ではしかのアウトブレイクが発生した。」
- ジャーナリストは最初の文だけを報道